

芸術研究科

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
	1年次	50 ※－ (50)	学内 35 ※－ (39)	学外 89 ※21 (78)	学内 34 ※－ (38)	学外 85 ※21 (75)	65 ※11 (61)	学内 22 ※－ (25)	学外 38 ※11 (34)
学生の進路 (人)	修了者	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他	
	62 ※16 (55)	22 ※1 (23)	企業 12 ※1 (16)	教員 10 ※－ (7)	公務員 － ※－ (－)				1 ※1 (3)

・ () は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 芸術研究科の活動

芸術組織運営委員会、芸術研究科教員会議の議を経て、「平成15年度 芸術研究科重点課題」を以下の様に定め推進することとした。

- (1) 外部評価が円滑に実施できるよう具体案を作成するとともにその推進を図る。
- (2) 外部評価結果に基づく改善策を検討する。
- (3) 教育目標に沿った教育の一層の高度・充実化を図る。
- (4) 社会的要請に対応する教育組織として新研究・教育分野の創出を図る。

重点課題(1)、(2)及び(3)については、更なる教育活動の改善・活性化と高度化の将来の発展に資するため、学外有識者による外部評価を行うため、他の芸術系各組織と連携しながら芸術研究科外部評価ワーキンググループ会議を15回開催して具体案等を作成し、11月14日に外部評価を実施した。また、外部評価報告書を作成し、併せて外部評価結果に基づき、教育目標に沿った教育の一層の高度化・充実化等を図るべく改善策等について検討をした。(4)については、概算要求していた世界遺産専攻の設置が認められ、平成16年4月より開講することになった。

この他、芸術各組織の自己点検、将来計画等について強力且つきめ細かな対応ができるよう、新たに芸術組織運営委員会を発足させた。

また、世界遺産専攻設置に伴う芸術研究科教育目標・方針を新しく設定した。

2 教員の教育業績評価の状況

芸術研究科は2専攻10分野で構成されていて、その教育内容は他の研究科間の違いほど多義にわたっており、業績評価のための一律的な基準の設定は困難ではあるが、研究業績に加えて教育業績、委員会等に係る運営業績、社会的貢献業績、管理運営能力等に係る教員業績評価基準により評価を実施している。更なる客観的評価可能な基準案策定に向けた検討をしなければならない。

3 自己評価と課題

芸術研究科では、伝統的な造形芸術諸分野の高度な研究・開発を推進するとともに、新しい科学技術や社会情勢の変化に対応した造形表現やデザイン分野の開発に努め、各分野が密接に関連しながら、これまで教育・研究を進めてきた。発足以来25年余、この間多くの修了者がそれぞれの専門性を活かし、社会の各分野で活躍している状況からも、芸術研究科の教育・研究体制が充実したものであるとの証であろう。

今回実施した外部評価においても、同様な評価をいただくことができた。

平成15年度においても、学生の対外コンクールの成績や「芸術研究科修了展」等での作品発表の評価からみても、概ね良好なかたちで研究科の教育・研究がなされたといえる。

更なる発展を期すべく、総合大学に存する芸術研究科であることの特色を活かし、芸術を基盤とする芸術文化等に対する新たな研究・教育領域の創出を図る。また、人間総合科学研究科との統合に向けた整備策をも検討する。